

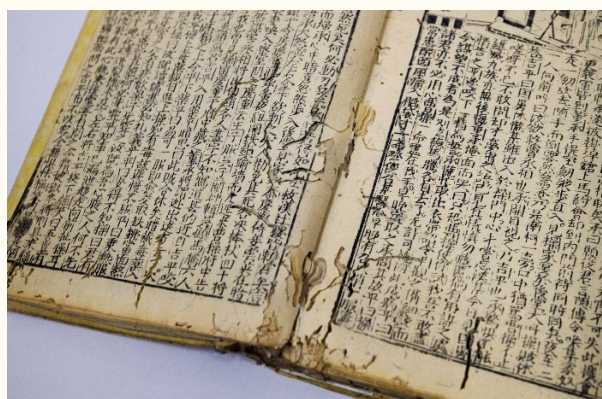
両足院蔵書の修復を進めています。

- ・ 書籍破損の主な原因は、シミやシバンムシによる食害です。これに経年の汚れや、折れが加わります。

【破損の実例】



事例：百納襖 23冊 〔室町時代〕写(〔林宗二〕等 リ154-1



事例：全像批評三国志伝 5冊 明万曆20年(1592)刊 リ131-6

- * このままでは、書籍を開くたびに文字が脱落し、学びの可能性を狭めてしまいます。

【修復の方法】

- ・ 両足院蔵書は、その形も多様で、さまざまな大きさの卷子本、折本、粘葉本、包背装本、冊子本、大福帳などがあり、古代から近代までの和本、唐本、韓本が含まれ、中には貴重な古い装訂の残されている場合があります。そこでその修復には、個別の状況に応じた素材や手順の選定を、柔軟に行わなくてはなりません。
- ・ ここでは、典型的な修復の方法をご紹介します。

1 解綴、ドライクリーニング

- ・ 記録をとって原本の綴じを外します。まずこの工程で、経年の汚れを落として行きます。



事例：律苑事規 4冊 リ12-12



事例：六祖壇經 折本1帖 リ182-13

2 本紙の補修

- ・ 虫穴をひとつずつ埋めて行く工程は、手間がかかりますが、原本の風合いを残すことができます。



- ・ 虫穴を埋めた本紙は、霧吹きで水分を入れてから押し乾きにします。



3 仕上げ（綴じ直し等）

- ・ 糸綴じの冊子は下綴じのあと本綴じとし、糊付けの折本は、糊を差し直します。



装潢担当・画像提供： 鶴見修復工房 小笠原温氏

＊ 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫は、お預かりした書籍の価値を未来に伝え、学びの可能性を広げていくために、微力ですが修復の作業を進めています。この活動を加速するため、みなさまのご理解とご助力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。